

2023年 4月改訂

ManageEngine Applications Manager



スタートアップガイド

ゾーホージャパン株式会社

■著作権について

本ガイドの著作権は、ゾーホージャパン株式会社が所有しています。

■注意事項

本ガイドの内容は、改良のため、予告なく変更することがあります。 ゾーホージャパン株式会社はこのガイドに関しての一切の責任を負いかねます。 当社はこのガイドを使用することにより引き起こされた偶発的もしくは間接的な損害についても責任を 負いかねます。

■ 商標一覧

記載の会社名、ロゴ、製品名の固有名詞は各社の商号、商標または登録商標です。なお、本ガイドでは、(R)、TM表記を省略しています。

目次

1 はじめに	5
1.1 スタートアップガイドについて	5
1.2 Applications Manager製品使用上の注意点	
2インストール	6
2.1 システム要件	6
2.2 Professional Editionのインストール(Windowsの場合)	7
2.3 Professional Editionのインストール(Linuxの場合)	13
3 起動と停止	17
3.1 起動方法	17
3.2 停止方法	18
3.3 APMプラグインの起動と停止	18
4 各画面の説明	19
4.1 ログイン画面	19
4.2 [ホーム] タブ	21
4.3 [監視]タブ	22
4.4 [アラート]タブ	22
4.5 [レポート] タブ	23
4.6 [設定]タブ	
4.7 [APM] タブ	
4.8 [ユーザー体感]タブ	24
4.9 各監視画面	
4.10 タブのカスタマイズ	
4.11 OpManager APMプラグインのメニュー	
5 ライセンスの適用と確認	26
5.1 ライセンスの適用	26
5.2 ライセンス情報の確認	
6 設定	
6.1 ディスカバリとデータ収集	27
6.2 アラート/アクション	
6.3 製品設定	
6.4 ポータルとの連携	
6.5 レポート	
6.6 ツール	
7 監視の登録	
7.1 監視の登録	
7.1.1追加	
7.1.2 ー括インポート 7.1.3 ディスカバリ	
7.1.3 ティスガハリ 	32
/ . C D(3 D) V J D X A C	

8 監視の設定	36
8.1 監視データの参照	
8.1.1 Oracleデータベースサーバー監視	36
8.1.2 Apacheサーバー監視	
8.1.3 Tomcatサーバー監視	
8.2 ポーリング設定	
8.3 [パフォーマンスポーリング]設定	
9 監視グループの設定	44
9.1 監視グループの作成	44
9.2 監視グループの参照	44
9.3 監視グループの関連付け	45
10 セルフ監視	45
10.1 セルフ監視で設定可能な項目	
10.2 セルフ監視の設定	46
11 ダッシュボード	46
11.1 ダッシュボードの作成	46
11.2 追加可能なウィジェット一覧	47
12 アラート設定方法	49
12.1 しきい値プロファイルの作成	49
12.2 アクションの作成	52
12.3 しきい値プロファイルとアクションの関連付け	53
12.4 ダウンタイムスケジューラー	
13 マッピング機能	56
13.1 ADDM機能とは	56
13.2 ADDMの作成	
13.3 ADDMの表示	57
13.4 その他マップ機能	57
14 レポート	58
14.1 レポートの紹介	
14.2 レポート作成方法	
14.3 スケジュールレポート	
15 その他	
15.1 ユーザー管理	
15.2 メールサーバー設定	
15.3 パーソナライズ化	
15.4 オプション機能のご紹介	
16 お問い合わせ窓口と関連資料	68

1 はじめに

<u>1.1 スタートアップガイドについて</u>

本ガイドは、Applications Managerのインストール方法や設定方法について説明しています。 評価期間中や導入構築時、運用開始時に利用しやすい資料となっていますので、ぜひご活用ください。 本ガイドは、Applications Manager Professional Edition ビルド15905をもとに作成しています。

本ガイドではAPMプラグインに関する記載もございます。

APMプラグインとは、当社別製品のManageEngine OpManager(以下、OpManager)でApplications Managerの機能を使用することができるオプション機能です。

本ガイドでは文字の書体を以下のように使い分けています。

記号	説明	例
ſj	参照する章、節を示します。	『1 はじめに』を参照してください。
[]	ボタンやメニュー名、強調する単語を示 します。	[ホーム]タブ画面
太字	入力箇所や、設定変更箇所	Aを入力してください。 TrueをFalseに置きかえてください。

本ガイドでは、UI上の以下のタブをメインタブ/サブタブと表記しています。



<u>1.2 Applications Manager製品使用上の注意点</u>

- 1. 制限事項
 - Applications Managerをインストール/起動する際には、管理者権限アカウントをご利用ください。
 - *Linux環境の場合は、非rootユーザー(管理者権限アカウント)でインストールを行ってください。
 - Applications Managerインストールフォルダー配下のサブフォルダーすべてに対して、 書き込み権限が必要です。
 - ウイルス対策ソフトが稼働している場合、Applications Managerインストールフォル ダーをスキャン対象から除外する必要があります(ウイルス対策ソフトの例外設定)。
 - 監視対象追加後、監視対象のIPアドレスの変更は推奨しておりません。
 - Applications Managerは、一部、日本語(マルチバイト文字)の入力に対応しておりません。
 - 対応していない部分につきましては、半角英数字をご使用ください。
- 2. Applications Managerサーバー使用ポート

Applications Managerが使用するデフォルトのポートは以下の通りです。 利用時にはポートが使用できる状態であることを確認してください。

用途	ポート番号	備考
PostgreSQLサーバー(データベース)	15432	-
Webサーバーポート	9090	インストール時に指定します。
Webサーバーポート(SSL)	8443	インストール時に指定します。
Web Containerポート	18009	-
Tomcatシャットダウンポート	18005	-
NMS BE Port	2000	-
SNMP	161	-
SNMPトラップ	1620	-
WMI	135/445	左記の他、動的に割り当てられる 1024以上ポートも必要です。
Telnet	23	-
ssh	22	-

2 インストール

Applications Managerのパッケージには、Webサーバー、アプリケーションサーバー、データベースサーバーなど、起動に必要なものがすべて含まれています。

インストール作業は、Webサーバーやデータベースサーバーの専門知識を必要とせず、インストーラーによりすべて自動で完了します。

インストール後、WebブラウザーでApplications ManagerサーバーのURL(http://サーバー名またはIPアドレス:9090)に接続し、Applications ManagerのWebクライアントを開きます。

30日の評価期間中、無料技術サポート(日本)を提供しています。

製品購入後、商用ライセンスを適用することで、ご契約期間までご利用できます。

※無料版は日本語でのサポートを提供していません。

2.1 システム要件

Applications Managerのシステム要件(最小構成)は次のとおりです。

ハードウェア	CPU: Dual Coreプロセッサー
(最小構成)	クロック数: 2.0 GHz以上
	メモリ: 4GB以上
	ディスク容量: 100 GB
オペレーティングシステム	Windows (Server 2022, Server 2019, Server 2016, Server 2012 R2
	Linux (CentOS Stream 8、Debian、Fedora、openSUSE、Oracle Linux

	、RHEL 7から8.4、SUSE Linux Enterprise、Ubuntu Server)
Webブラウザー	Google Chrome(推奨)
	Microsoft Edge
	Mozilla Firefox
	*すべてのブラウザーで、JavaScript、Cookie、iframeでの作業、
	サードパーティーのCookieを有効にしてください。

2.2 Professional Editionのインストール(Windowsの場合)

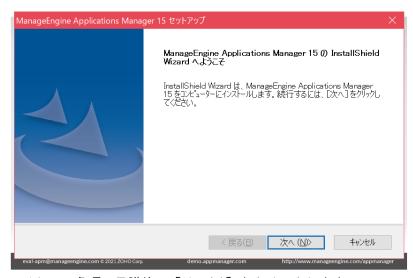
1. 評価版インストーラーを以下のサイトからダウンロードします(Windows64bit版 (日本語))。

https://www.manageengine.jp/products/Applications_Manager/download.html

2. ManageEngine_ApplicationsManager_64bit.exeを管理者権限で実行します。 実行後、ウィザード形式によりインストールを行います。



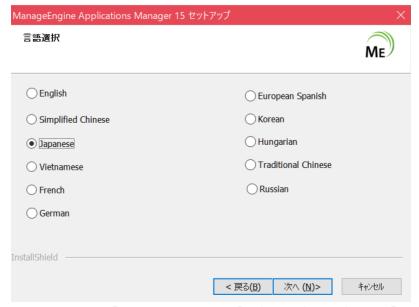
3. [次へ(N)] をクリックします。



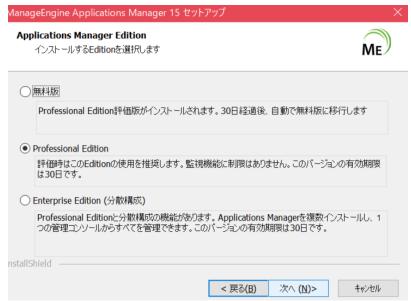
4. ライセンス条項に承諾後、 [はい(Y)] をクリックします。



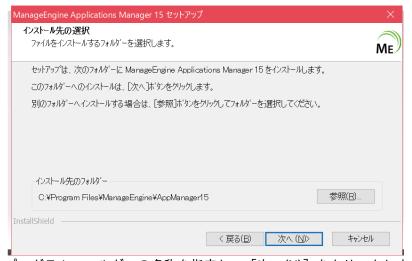
5. 言語として、 [Japanese] (日本語) を選択し、 [次へ(N)] をクリックします。



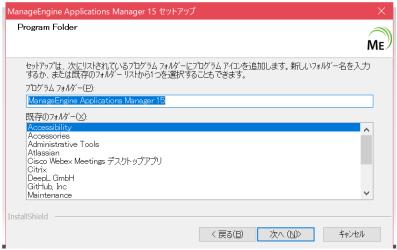
6. Editionとして、 [Professional Edition] (評価版)を選択し、 [次へ(N)] をクリックします。



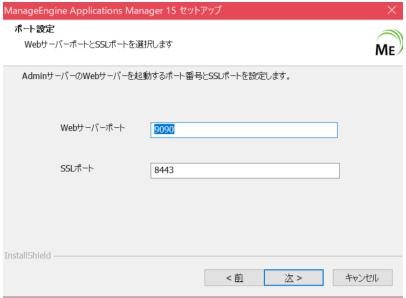
7. インストールフォルダーを選択し、 [次へ(N)] をクリックします。 デフォルトでは、C:\Program Files\ManageEngine\AppManager15です。



8. プログラムフォルダーの名称を指定し、 [次へ(N)] をクリックします。



9. Webサーバーのポート番号を指定し、 [次へ(N)] をクリックします。 デフォルトで指定されるポートは9090、SSLポートは8443です。



10. 登録情報(任意)を入力し、 [Next] をクリックします。 *スキップ可能です。



11. 設定したインストール情報を確認し、 [次へ(N)] をクリックするとインストールが開始します。

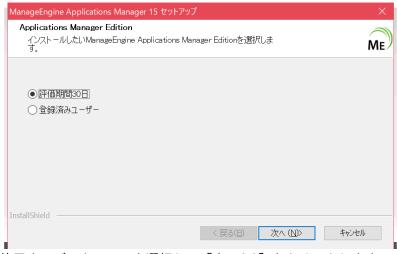


12. インストールが進行中、次のようなウィンドウがしばらく表示されます。



13. 評価版をインストールする場合は [評価期間30日] を、ライセンス購入済みの場合は [登録済みユーザー] を選択し、 [次へ(N)] をクリックします。

[登録済みユーザー]を選択すると、ライセンス適用画面が表示されます。



14. 使用するデータベースを選択し、 [次へ(N)] をクリックします。PostgreSQLが、Applications Managerにバンドルされています。*MS SQLを選択する場合、Applications Managerには含まれていないので、別途用意する必要があります。



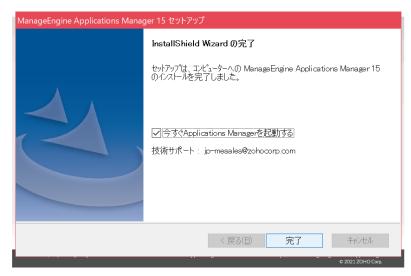
15. データベース選択時にPostgreSQLを選択すると、以下のダイアログが表示されることがあります。

アンチウイルスソフトやバックアップソフトを使用する場合、データベースの動作に影響を及ぼす可能性がありますので、Applications Managerインストールフォルダー全体を対象から除外してください。



16. インストール完了です。

[今すぐApplications Managerを起動する]のチェックを必要に応じて選択します。 最後に[完了]ボタンをクリックします。



17. Applications Managerを起動後、WebブラウザーからURL: http://サーバー名:ポート番号(デフォルト値:9090)を使用し、Webクライアントに接続してください。 起動方法は『3 起動と停止』をご参照ください。

2.3 Professional Editionのインストール(Linuxの場合)

Linuxへのインストールは、CUIでもインストールすることができます。 ここでは、CUI接続によるインストールを紹介します。 (GUIについては、Windowsと同様の手順となります。)

※インストール時は、非rootユーザーかつ管理者権限を持つユーザーを使用してください。

- 1. 評価版インストーラーを以下のサイトからダウンロードします(Linux64bit版 (日本語))。 https://www.manageengine.jp/products/Applications_Manager/download.html
- rootユーザーを使用して、TelnetまたはSSHでLinuxサーバーにログインします。
 *ここではrootユーザーを使用してください。
- 3. ManageEngine_ApplicationsManager_64bit.binを任意のディレクトリに配置します。

4. ManageEngine_ApplicationsManager_64bit.binに実行権限を付与します。

#chmod +x ManageEngine ApplicationsManager 64bit.bin

5. 非rootユーザーかつ管理者権限を持つユーザーで、

ManageEngine_ApplicationsManager_64bit.binを実行します。

./ManageEngine_ApplicationsManager_64bit.bin -i console

6. インストールウィザードに従い、インストールを行います。

PRESS <ENTER> TO CONTINUE:

- ライセンス条項は、PRESS <ENTER> TO CONTINUEに対してEnterを押下して進みます。
- 8. DO YOU ACCEPT THE TERMS OF THIS LICENSE AGREEMENT?と表示されますので、同意の上、 Yを入力し、Enterを押下します。

DO YOU ACCEPT THE TERMS OF THIS LICENSE AGREEMENT? (Y/N):

9. Editionを選択します。

Professional Editionの場合、1を入力し、Enterを押下します。

Edition Selection

- ->1- Professional Edition
 - 2- Enterprise Edition (Distributed Setup)
 - 3- Free Edition

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT::

10. 言語を選択します。

日本語の場合、3を入力し、Enterを押下します。

Language Selection

- ->1- English
 - 2- Simplified Chinese
- 3- Japanese
- **4- Vietnamese**
- 5- French
- 6- German
- 7- European Spanish
- 8- korean
- 9- Hungarian
- **10- Traditional Chinese**

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT:: 3

- 11. 評価版をインストールする場合は**1**(Trial User)を、ライセンス購入済みの場合は**2**(Registered User)を選択します。
 - 2(Registered User)を選択した場合、ライセンスファイルのパスを指定します。

Get User Details

Enter requested information

- ->1- Trial User
 - 2- Registered User

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT::

12. Webサーバーのポートを指定します。デフォルトは9090です。

Web server port

you can access Applications Manager through web client by http://hostname:port

Enter the Web Server Port (Default: 9090): 9090

13. SSLポートを指定します。デフォルトは8443です。

Web server SSL port

Enter the Web Server SSL port (Default: 8443): 8443

14. データベースを選択します。

PostgreSQLが、Applications Managerにバンドルされています。

*MS SQLを選択する場合、Applications Managerに含まれていないので、別途用意する必要があります。

Database to Use

Select the database to use

- ->1- PostgreSQL (Bundled with the product)
- 2- Microsoft SQL Server (version 2005 and above)

ENTER THE NUMBER FOR YOUR CHOICE, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT::

15. インストールディレクトリを指定します。

```
Choose Install Folder
-----
Directory Name:

Default Install Folder: /opt/ManageEngine/AppManager15

ENTER AN ABSOLUTE PATH, OR PRESS <ENTER> TO ACCEPT THE DEFAULT
:
```

16. インストール情報を確認のうえ、Enterを押下します。

```
Pre-Installation Summary
Please Review the Following Before Continuing:
Product Name:
 ManageEngine Applications Manager15
Install Folder:
 /opt/ManageEngine/AppManager15
Link Folder:
 /root
Type Of Installation:
 PROFESSIONAL EDITION
DB Back-end:
 pgsql
Web Server Port:
  "9090"
Disk Space Information (for Installation Target):
  Required: 582,782,727 Bytes
  Available: 151,683,977,216 Bytes
PRESS <ENTER> TO CONTINUE:
```

17. Enterを押下して、インストールを開始します。

Ready To Install

InstallAnywhere is now ready to install ManageEngine Applications Manager15 onto your system at the following location:

/opt/ManageEngine/AppManager15

PRESS <ENTER> TO INSTALL:

18. インストールが完了すると以下のメッセージが表示されます。

Installation Complete

Congratulations! ManageEngine Applications Manager15 has been successfully installed to:

/opt/ManageEngine/AppManager15

Press "Done" to quit the installer.

"For support, Please Mail to: eval-apm@manageengine.com"

PRESS <ENTER> TO EXIT THE INSTALLER:

19. Applications Managerを起動し、Webブラウザーから URL: http://サーバー名:ポート番号(デフォルト値:9090)を使用し、Webクライアントに接続してください。 起動方法は『3 起動と停止』をご参照ください。

3 起動と停止

3.1 起動方法

■Windows

<スタートメニューを利用する場合>

[スタート] \rightarrow [プログラム] \rightarrow $[ManageEngine Applications Manager 15] <math>\rightarrow$ [Applications Manager Start] をクリックします。

または、デスクトップ上のManageEngine Applications Manager 15アイコンをダブルクリックします。

<Windows サービスを利用する場合>

サービス管理画面から [ManageEngine Applications Manager] を開始します。

■Linux

コンソールより、以下のコマンドを実行します。

cd Applications Managerインストールディレクトリ # nohup sh startApplicationsManager.sh &

&を指定して、バックグラウンドで起動します。

3.2 停止方法

■Windows

<スタートメニューを利用する場合>

[スタート] \rightarrow [プログラム] \rightarrow $[ManageEngine Applications Manager 15] <math>\rightarrow$ [Applications Manager Shutdown] をクリックします。

<Windows サービスを利用する場合>

サービス管理画面で [ManageEngine Applications Manager] を停止します。

■Linux

コンソールより、以下のコマンドを実行します。

cd Applications Managerインストールディレクトリ # ./shutdownApplicationsManager.sh

3.3 APMプラグインの起動と停止

APMプラグインは、OpManagerの起動、停止と連動しています。 APMプラグインを起動するには、OpManagerを起動する必要があります。

【起動】

■Windows

<スタートメニューを利用する場合>

[スタート] → [プログラム] → [ManageEngine OpManager]メニューより [OpManager Start]を 実行します。

または、デスクトップ上のアイコンをダブルクリックします。

<Windows サービスを利用する場合>

[コントロールパネル] → [管理ツール] → [サービス] で [ManageEngine OpManager] を開始します。

■Linux

コンソールより、root権限で以下のコマンドを実行します。

cd OpManager/bin # ./StartOpManagerServer.sh &

&を指定して、バックグラウンドで起動します。

【停止】

■Windows

<スタートメニューを利用する場合> スタートメニューにシャットダウンのメニューはありません。 下記の方法で停止作業を行ってください。

<Windows サービスを利用する場合>

[コントロールパネル] \rightarrow [管理ツール] \rightarrow [サービス] で [ManageEngine OpManager] を停止します。

■Linux

コンソールより、root権限で以下のコマンドを実行します。

cd OpManager/bin #./ShutdownOpManager.sh

OpManagerの起動/停止方法に関しましては、以下のユーザーマニュアルをご参照ください。 https://www.manageengine.jp/products/OpManager/help/starting-opmanager.html

4 各画面の説明

4.1 ログイン画面

Applications Managerにアクセスした際に表示されるログイン画面です。 初期設定では、ユーザー名とパスワードは共にadminです。



ログイン後、 [設定] →製品設定配下の [ユーザー管理] でパスワードを変更できます。 表示されるユーザー名をクリックし、 [パスワードの更新] にチェックをつけることで、パスワード変 更が可能です。

パスワードを忘れた場合は、 [パスワードのリセット] から、新しいパスワードを発行してください。 登録したメールにお知らせします。

(メールを送信するには、[設定]→製品設定配下の[接続サーバー設定]よりメールサーバーの設定が必須となります。『15.2 メールサーバー設定』をご参照ください。)

adminユーザーのデフォルトのパスワード(admin)を強制的に変更するよう、パスワードリセットポリシーが実装されています。

デフォルトのパスワードの変更をお願いします。

詳細は以下のナレッジをご参照ください。

https://www.manageengine.jp/support/kb/Applications_Manager/?p=3138



初期設定の場合、ログイン直後はイントロダクションページ([イントロ]タブ)が表示されます。 このタブは、設定で非表示にできます。

[イントロ] タブの非表示設定は以下の通りです。

- 1. [設定]→製品設定配下の[グローバル設定]に移動します。
- 2. [[イントロ]メニューを表示する]を無効にします。

4.2 [ホーム] タブ

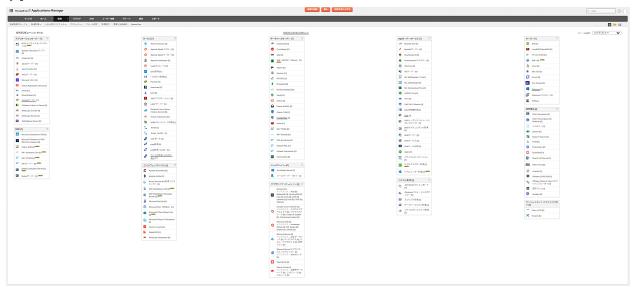
ダッシュボードが表示される画面です。 デフォルトでは[デフォルトダッシュボード]が表示されます。 内容については『11 ダッシュボード』をご参照ください。



4.3 [監視] タブ

追加した監視を一覧表示する画面です。

デフォルトでは、追加可能なサーバー、サービス等を一覧表示した [カテゴリビュー] が表示されます。

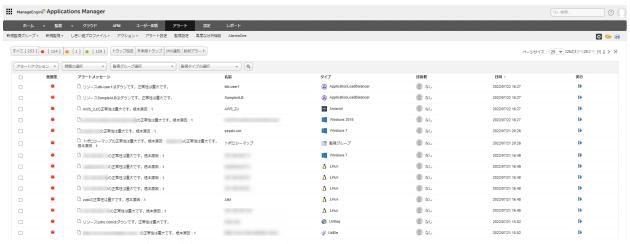


画面上部の [登録済みの監視のみ表示する] をクリックすると登録した監視タイプのみ表示されます。また、画面右上の [ビューの選択] から、一括設定、アイコンビュー、テーブルビュー等のビューも選択可能です。 [デフォルトに設定] をクリックすると、常時、選択したビューが [監視] タブ配下で表示されます。

<u>4.4 [アラート] タブ</u>

現在発生しているアラートを表示します。

登録されているアプリケーションや装置で問題が発生した場合に、アラートとして最新の状態を確認することができます。

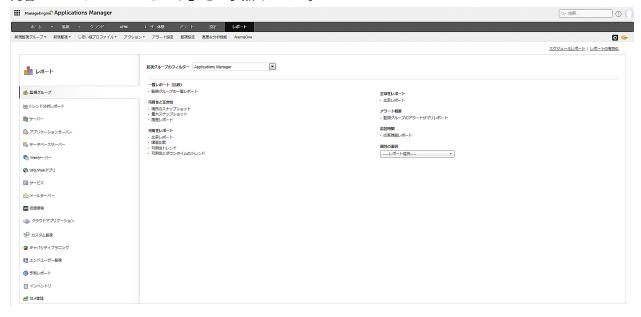


アラートのステータス(重要度)のアイコンの色は以下の通りです。

●重大 ●警告 ●クリア

<u>4.5 [レポート] タブ</u>

収集したデータをレポートとして表示します。 内容については『14 レポート』をご参照ください。



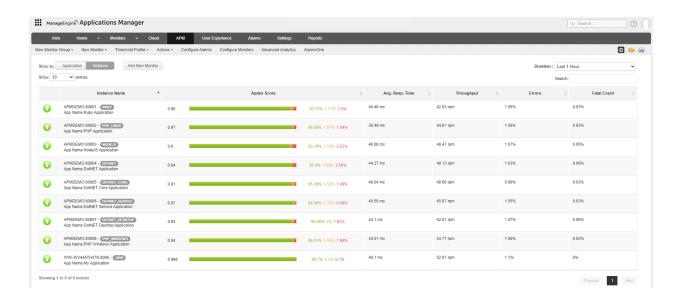
4.6 [設定] タブ

Applications Managerの設定画面です。 内容については『6 設定』をご参照ください。



4.7 [APM] タブ

APMインサイト(オプション機能)使用時の監視、設定画面です。



4.8 [ユーザー体感] タブ

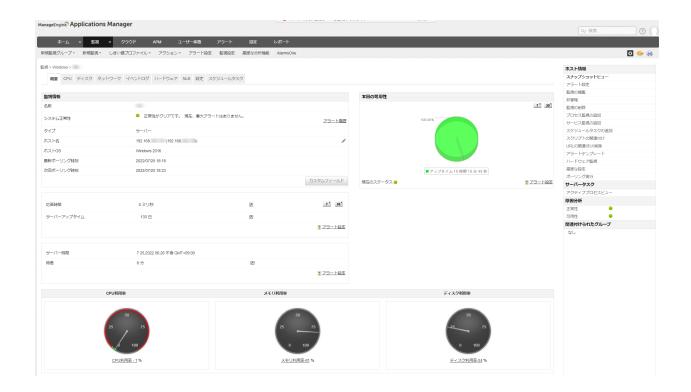
エンドユーザー監視(オプション機能)使用時の監視、設定画面です。



4.9 各監視画面

Applications Managerに登録したすべての監視、アプリケーションには、監視情報を表示する概要画面があります。

概要画面では、正常性と可用性、本日の可用性(%)、アップタイム、ダウンタイム等が表示されます。 監視、アプリケーション固有の監視項目は、画面のスクロールやタブの切り替えで表示します。



4.10 タブのカスタマイズ

Applications Manager画面上のタブの順序の変更や追加などのカスタマイズを行うことができます。 カスタマイズ方法は、以下のとおりです。

1. 画面右上のシルエットアイコンをクリックし、 [タブの編集] をクリックします。



2. タブのカスタマイズ画面が表示されます。タブの順序入れ替え、監視ビュー等へのリンクの配置ができます。



『15.3 パーソナライズ化』からも同様に設定できます。

4.11 OpManager APMプラグインのメニュー

APMプラグインコンソールへのアクセス方法:
OpManagerのUI画面から、[アプリケーション]タブをクリックしてください。

各タブの内容はApplications Managerと同様です。 APMプラグインには、タブのカスタマイズ機能はありません。

5 ライセンスの適用と確認

<u>5.1 ライセンスの適用</u>

※本記載は、商用ライセンスを購入されたユーザー様が対象です。

Applications Managerにログイン後、[設定]→製品設定配下の[製品ライセンス]メニューをクリックすると、ライセンス登録画面が表示されます。

[ファイルを選択]で、ゾーホージャパン株式会社から送付されたライセンスファイルを指定し、[登録]をクリックしてライセンスを登録します。



APMプラグインのライセンスは、OpManagerライセンス適用時に登録されます。

ライセンスの期限が切れた場合は、無料版に移行します。

5.2 ライセンス情報の確認

[設定] $_{\rightarrow}$ ツール配下の [サポート] ページ、または、 [設定] $_{\rightarrow}$ 製品設配下の [製品ライセンス] からライセンス情報を確認します。

オプション機能の情報もこちらから確認できます。



6 設定

Applications Managerの設定は、 [設定] タブ配下で行います。

6.1 ディスカバリとデータ収集

項目	説明
認証情報設定	SNMP/WMI/Telnet/SSH/VMwareなど、装置登録時/監視時に使用する認証情報を設定します。
テンプレートライブラリ	サーバーの機種別、OS別の監視テンプレートを作成します。プロセステンプレート、サービステンプレートの2種類を作成できます。
追加/ディスカバリ	装置、サービスを追加します。

カスタム監視タイプ	ユーザー定義の監視タイプを作成できます。
パフォーマンスポーリング	データ収集に関する設定をします。パフォーマンスデータ収集
	頻度や、監視タイプごとのデータ収集の設定ができます。設定
	可能な項目については『8.3 [パフォーマンスポーリング] 設
	定』をご参照ください。
ダウンタイムスケジューラー	計画メンテナンスやシステムの定期再起動の時間など、監視を
	必要としない期間を設定します。設定可能な項目については『
	12.4 ダウンタイムスケジューラー』をご参照ください。
OAuthプロバイダー	OAuthプロバイダー(IdP)のプロファイル設定を行います。
APMインサイトエージェント設定	APMインサイトアプリケーションを監視する方法を設定しま
プロファイル	す。
Webトークン	追加したWebトークンがリストアップされます。

6.2 アラート/アクション

項目	説明
しきい値/アノマリ	アラート発生のトリガーとなるしきい値/アノマリを設定しま
	す。
アラート設定	登録した装置、アプリケーションに、アクションの関連付けを
	行います。
可用性設定	可用性の表示に関する設定をします。
アクション/アラート設定	アクションを実行する条件などを設定します。
アクション	登録されたアクションを表示します。
ログルール	イベントログ、Microsoft Azureログの監視ルールを設定しま
	す。
アラートエスカレーション	アラート発生後、アラートがクリアされない場合のエスカレー
	ション設定をします。
トラップ	Applications Managerから特定のホストにトラップを送信するた
	めの設定や、特定のトラップを受信した際の動作設定をしま
	す。

6.3 製品設定

項目	説明
接続サーバー設定	Applications Managerで使用する以下のサーバー設定をします。 メールサーバー/プロキシサーバー/SMSサーバー/SMSゲート ウェイ
グローバル設定	UI上のタブやアナウンスの表示/非表示を設定したり、セルフ監視(『10 セルフ監視』参照)の有効化等ができます。 各種オプションの有効/無効を設定します。
ユーザー管理	Applications Managerを使用するユーザーアカウントを管理します。 詳しくは『15.1 ユーザー管理』をご参照ください。

アドオン設定	Applications Managerと連携できるサードパーティー製品を設定します。
製品ライセンス	Applications Managerへのライセンス適用やライセンス情報を表示します。
ログ出力	製品のデバックログの出力レベルを設定します。
パーソナライズ	製品画面をカスタマイズします。 詳しくは『15.3 パーソナライズ化』をご参照ください。
サーバー設定	Applications Managerサーバーに関する各種設定を行います。
プライバシー設定	Applications Managerのプライバシー設定を行います。
セキュリティ設定	Applications Managerのセキュリティ設定を行います。 以下のような項目が設定可能です。 ・強力なパスワードルールやアカウントロックを強制 ・HTTPポートの無効化 ・ファイルのアップロードを無効

<u>6.4 ポータルとの連携</u>

項目	説明
REST API	他のサービス/製品と連携するためのREST APIキーを生成しま
	す。
JSONフィード	Applications Managerのデータを他サービスページに表示するた
	めのURLを表示します。
ワールドマップ	ワールドマップビューを作成します。
ダッシュボード	新規ダッシュボードを作成します。
	『11 ダッシュボード』をご参照ください。

<u>6.5 レポート</u>

項目	説明
レポート設定	レポート出力時の設定、データ保存期間、レポートに印字する
	ロゴの設定をします。
レポートの有効化	レポートに含めるパフォーマンスメトリックを選択します。
スケジュールレポート	定期的にレポートを出力するスケジュールを作成します。
業務時間	業務時間と業務時間外を区別してレポート表示する場合に設定
	します。
	*適用可能なレポートタイプに制限があります。
SLA管理	サービス品質の基準を作成します。

<u>6.6 ツール</u>

項目	説明
セルフ監視	Applications Managerのインストールサーバー自体を監視する各項目(CPU、ディスク、メモリ利用率など)の設定を行います。
ファイル/バイナリのアップロード	Applications Managerインストールフォルダー内にJAR/MIB/スクリプトファイルをアップロードします。
サービスのシャットダウン/再起動	Applications Managerをシャットダウン/再起動します。
サポート	サポート用の情報を参照できます。インストールした Applications Managerのステータスを表示します。
証明書を管理する	Applications Managerで使用するSSL証明書を設定します。
監査ログ	Applications Managerの監査ログを確認/エクスポートします。
セルフヘルプツール	コンソール内で必要な操作を実行するためのセルフヘルプツールの設定をします。 ・WMIクエリツール ・URLデバッグツール(ビルド15905以降で実装)
バックアップスケジュール	Applications Managerのデータベースのバックアップを、即時またはスケジュール実行します。

*APMプラグインでは、[サービスのシャットダウン/再起動]は表示されません。 APMプラグインの起動と停止はOpManagerと連動しています。

7 監視の登録

装置およびアプリケーションをApplications Managerで監視するための監視登録を行います。

7.1 監視の登録

監視の追加方法として、追加、一括インポート、ディスカバリの3種類があります。

7.1.1追加

新たな監視を個別に追加します。

- 1. サブタブの [新規監視] → [監視の新規追加] または [設定] タブ内の [ディスカバリとデータ 収集] の [追加/ディスカバリ] をクリックします。
- 2. 追加したいアプリケーションまたは装置の種類を選択します。
- 3. 選択した監視タイプの追加に必要な項目を入力します。 監視登録に必要な項目は、各監視タイプにより異なります。
- 4. 認証情報は、監視登録ごとに入力する方法の他、認証情報マネージャーにあらかじめ登録した認証情報を使用する方法があります。

認証情報マネージャーに登録した認証情報を使用するには [認証情報の詳細] 欄で [認証情報リストから選択] を選択し、一覧から適切な情報を選択します。

認証情報マネージャーについては『7.2 認証の設定』をご参照ください。

5. [監視の追加]をクリック

監視タイプの追加	Oracle	w		8	監視の一括インボート
表示名*					
ホスト名/IPアドレス*					
サブネットマスク <mark>*</mark>	255.255.255.0	高度な設定			
ポート番号*	1521				
認証情報の詳細。	次の認証情報を利用 (認証情報リストから)	選択			
ユーザー名*	system				
パスワード					
インスタンス名 (サービス名)・	orci				
SSLが有効					
プラカブルデータベースのディスカバリ (PDB) *	○はい●いいえ				
ソケット読み取りタイムアウト	300	秒			
クエリ実行タイムアウト	60	秒			
ポーリング間隔*	5 分				
	認証情報テスト				
監視インスタンスの関連付け: 監視グループ					
監視グループの選択	検索		新規監視グループの作成		
	監視の追加 リセット キャンセル				

7.1.2 一括インポート

同一の監視タイプを対象に、CSVファイルを使用して一括で追加します。

- 1. [設定] タブ内の[ディスカバリとデータ収集]の[追加/ディスカバリ]をクリックします。
- 2. [一括インポート] タブをクリックします。
- 3. 監視タイプを選択します。
- 4. アップロードするファイルに、設定情報を記載したCSVファイルを指定します。 CSVファイルのフォーマットは以下のユーザーガイドにてご確認いただけます。 https://www.manageengine.jp/products/Applications_Manager/help/bulk-import-of-monitors.html
- 5. [追加]をクリックし、追加された監視リストを確認してください。
- 6. [ディスカバリの開始]をクリックして、監視を追加します。 進捗は画面に表示される、[ログを表示]から確認できます。



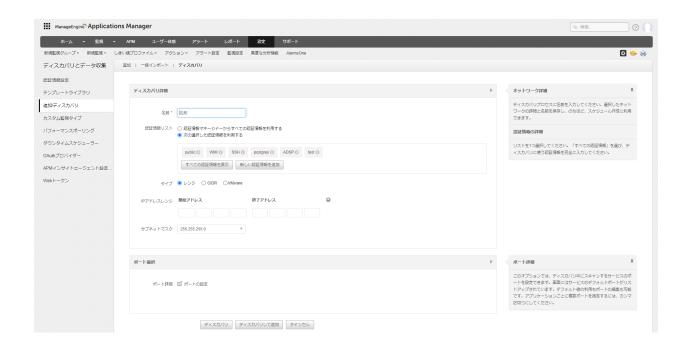
7.1.3 ディスカバリ

指定した特定のネットワーク内の監視を一括で追加します。

- 1. サブタブの [新規監視] \rightarrow [監視のディスカバリ] または [設定] タブ内の [ディスカバリと データ収集] の 「追加/ディスカバリ \rightarrow 「ディスカバリ] クリックします。
- 2. [新規追加]をクリックします。
- 3. ディスカバリプロセスに名前を入力します。
- 4. 認証情報は、認証情報マネージャーにあらかじめ登録した認証情報を選択して使用する方法と、 すべて使用する方法があります。

認証情報マネージャーについては『7.2 認証の設定』をご参照ください。

- 5. 指定する範囲をどのタイプで行うか指定します。
 - · [レンジ]:IPアドレスレンジを入力します。
 - ・ [CIDR] :ネットワークアドレスを入力します。
 - ・ [VMware] : VMware情報を入力します。
- 6. 5で選択したタイプごとに、ディスカバリ範囲を指定します。
- 7. [ディスカバリ] または [ディスカバリして追加] をクリックして、監視を追加します。 [ディスカバリ] を選択した場合、監視を追加する前に、不要な監視を削除することが可能です。



7.2 認証の設定

認証情報設定では、各監視タイプに応じたユーザー名やパスワード、SNMPコミュニティ、ポート情報などの認証情報を、プロファイルとして作成します。

事前に認証情報を登録することで、新たに監視を追加する際の入力の手間を省くことができます。 また、複数の監視対象で共通の認証情報を設定している場合には、1つの認証プロファイルに集約することで、効率的な管理につながります。

認証情報を認証情報マネージャーに登録する方法は次の通りです。

デフォルトではSNMP認証が1つ設定されています。

- 1. 「設定】タブ→ディスカバリとデータ収集配下の「認証情報設定】をクリックします。
- 2. [新しい認証情報を追加]をクリックして、認証を追加します。
- 3. [認証情報タイプ]を選択します。登録可能な各認証タイプは以下の通りです。

分類	認証情報タイプ
サーバー	Telnet
	SNMP v1/v2
	SNMP v3
	SSH
	PowerShell
	WMI
アプリケーションサーバー	GlassFish
	JBossサーバー

	Jettyサーバー
	Microsoft .NET
	Resin
	REST API
	REST APIシーケンス
	Tomcatサーバー
	VMware vFabric tc Server
	WebLogic Server
	WebSphere Server
	Apache Geronimoサーバー
Java/トランザクション	Java Runtime
	AS400DB2
	Cassandra
	Couchbase
	Db2
	HBase
	Informix
	MongoDB
	MS SQL
	MySQL/MariaDB
データベースサーバー	Oracle NoSQL
	Oracle
	PostgreSQL
	SAP HANA
	SAP MaxDB
	Neo4j
	SQL Anywhere
	Sybase ASE
	Sybase Replication
	Microsoft MQ (MSMQ)
	Microsoft Office SharePoint
	Microsoft BizTalk Server
ミドルウェア/ポータル	RabbitMQ
	Microsoft Skype for Business
	Apache Kafka
	Apache ActiveMQ
	Oracle EBS
	SAP Server/ SAP CCMS
ERP	Microsoft Dynamics CRM / 365(オンプレミス)
	Microsoft Dynamics CRM
	SAP Business One
Cloud	

	Apacheサーバー		
	Apache Solr		
	Elasticsearchクラスター		
Web	ME OpManager		
	HAProxy		
	NGNIX Plus		
	URL		
サービス	Coherence		
	Hazelcast		
	Apache Spark		
	Active Directory		
	ネットワークポリシーサーバー(RADIUSサー		
	バー)		
	Istio		
	LDAPサーバー		
	メールサーバー		
	FTP/SFTP		
コンバージドインフラストラクチャ	Nutanix		
	Cisco UCS		
仮想化	Docker		
	XenApp		
	Oracle VM		
	Hyper-V Server		
	Citrix Hypervisor		
	Citrix Hypervisor Citrix Virtual Apps とデスクトップ		

- 4. [認証情報名] に任意の名前を入力します。
- 5. 各認証情報タイプに必要な項目を入力します。
 - ・SNMP v1/v2認証の場合、コミュニティ名とタイムアウトを設定します。



設定項目は、選択した認証情報タイプに応じて異なります。

6. [保存]をクリックし、入力した情報を認証情報マネージャーに登録します。

8 監視の設定

追加した監視の参照方法やポーリングの設定について記載します。 監視の追加方法は、『7 監視の登録』をご参照ください。

8.1 監視データの参照

例として、以下の監視対象について詳細な監視の追加から監視情報の参照方法をご紹介します。

- Oracleデータベースサーバー監視
- Apacheサーバー監視
- Tomcatサーバー監視

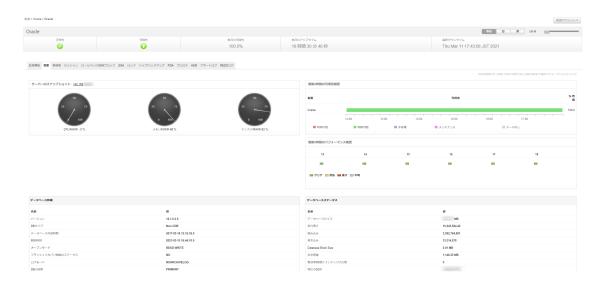
その他の監視対象については、ユーザーガイドや製品UI内のヘルプカードをご参照ください。

8.1.1 Oracleデータベースサーバー監視

- 1. [新規監視] \rightarrow [監視の新規追加] から、データベースサーバー配下の [Oracle] を選択します。
- 2. 以下の必要情報を入力し監視を追加します。
 - ·表示名*
 - ・ホスト名/IPアドレス*
 - ・サブネットマスク*
 - ・ポート番号*
 - ・認証情報の詳細(ユーザー名*/パスワード)
 - ・インスタンス名(サービス名)*
 - ・SSLが有効
 - ・プラガブルデータベースのディスカバリ(PDB)*
 - ・ソケット読み取りタイムアウト
 - ・クエリ実行タイムアウト
 - ・ポーリング間隔*
 - *入力必須項目です。
- 3. 追加したOracleの監視画面に移動します。

[監視] タブから監視対象のカテゴリをクリックし、監視名をクリックすることで移動できます。

その他、[ホーム] 画面のダッシュボードから監視対象のカテゴリをクリックし、その後、監視 名をクリックすることで監視画面を表示することもできます。



4. 正常性と可用性が色別に表示されます。 正常性の詳細がアイコンの下に表示されます。



可用性アイコン: ● アップ ● ダウン

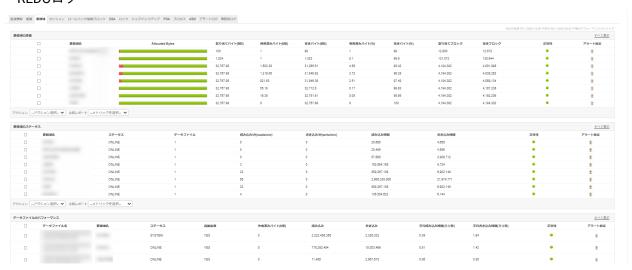
正常性(重要度)アイコン: ●重大 ● 警告 ● クリア ● 非管理

5. [概要] タブでは、時間ごとの可用性とパフォーマンスの履歴が最新6時間表示されます。 ウィジェット[可用性とパフォーマンス履歴]の下には、監視タイプごとに固有の監視情報が表示されます。

その他、データベース情報やセッション数、空きバイトが少ない表領域などを参照できます。



- 6. Oracle監視では、 [概要] タブの他に、以下の各タブが存在します。
 - ・監視情報
 - ・表領域
 - ・セッション
 - ・ロールバック/破損ブロック
 - ·SGA
 - ・ロック
 - ・ジョブ/バックアップ
 - · PGA
 - ・プロセス
 - · ASM
 - ・アラートログ
 - ・REDOログ



7. Applications Managerで計測したアプリケーション/装置の可用性や正常性に従ってアラートを発生させるには、しきい値・アノマリの設定が必要です。

監視画面右上の[監視アクション]→[アラート設定]から、障害管理のためのしきい値・アノ

マリが設定できます。

しきい値、アノマリの設定方法は『12 アラート設定方法』をご参照ください。

8.1.2 Apacheサーバー監視

1. [新規監視] タブ $_{\rightarrow}$ [監視の新規追加] から、Webサーバー/サービス配下の [Apacheサーバー] を選択し、監視を追加します。

Apacheサーバー監視追加の際に必要な情報は以下の通りです。

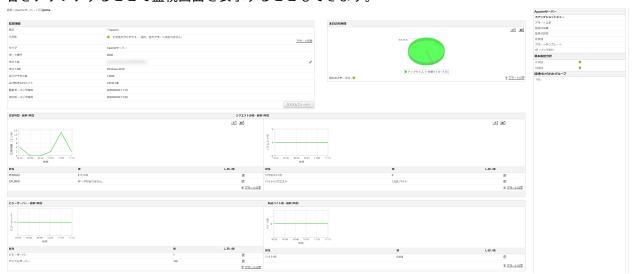
- ・表示名*
- ・ホスト名 / IPアドレス*
- ・サブネットマスク*
- ・ポート番号*
- ・認証情報の詳細*
- ・SSLが有効(Apacheサーバー上でSSLが有効な場合は選択)
- ・認証が有効(Apacheサーバーで認証が必要な場合は選択し、認証情報を入力)
- ・ApacheサーバーステータスURLの修正

(ApacheサーバーURLが異なる場合は、選択し、正しいURLを入力)

- ・ポーリング間隔*
- *入力必須項目です。
- 2. 追加したApacheサーバーの監視画面に移動します。

[監視] タブから監視対象のカテゴリをクリックし、監視名をクリックすることで移動できます。

その他、[ホーム] 画面のダッシュボードから監視対象のカテゴリをクリックし、その後、監視名をクリックすることで監視画面を表示することもできます。



3. 画面右側の [根本原因分析] に、Apacheサーバーの可用性と正常性が色別に表示されます。



可用性アイコン:●アップ ●ダウン

正常性(重要度)アイコン: ●重大 ● 警告 ● クリア ● 非管理

4. Apacheサーバー監視画面で監視可能な項目は以下の通りです。

可用性、応答時間、リクエスト詳細、ビジーサーバー、転送バイト数、サーバースナップショット

※サーバーステータスと拡張ステータスを有効にして、追加情報を取得できます。

サーバーステータスの有効化:

- (1) Apacheのhttpd.confファイル内の<Location /server-status>タグに移動
- (2) SetHandler server-statusを有効にするため、<Location /server-status>タグをコメント解除
- (3) 属性をDeny from allからAllow from <IP Address>に変更 <IP Address>には、Applications ManagerインストールサーバーのIPアドレスを入力
- (4)LoadModule status_module modules/mod_status.soをコメント解除
- (5) 設定ファイルを保存し、Apacheサーバーを再起動

拡張ステータスの有効化:

- (1) httpd.confファイルにあるExtendedStatusに移動
- (2) ステータスを有効にするため、コメント解除
- (3) 設定ファイルを保存し、Apacheサーバーを再起動
- 5. Applications Managerで計測したアプリケーション/装置の可用性や正常性に従ってアラートを発生させるには、しきい値、アノマリの設定が必要です。

監視画面右上の[アラート設定]から、障害管理のためのしきい値、アノマリが設定できます。 しきい値、アノマリの設定方法は『12 アラート設定方法』をご参照ください。

8.1.3 Tomcatサーバー監視

- 1. 以下のページに記載の前提条件を確認してください。
 - https://www.manageengine.jp/products/Applications_Manager/help/prerequisites-for-applications-manager.html#tomcat
- 〔新規監視〕タブ→ [監視の新規追加] から、アプリケーションサーバー配下の [Tomcatサーバー] を選択し、監視を追加します。

Tomcatサーバー監視追加の際に必要な情報は以下の通りです。

- ・表示名*
- ・ホスト名/ IPアドレス*
- ・ポート番号*
- ・認証情報の詳細*
- ・SSLが有効
- ・Tomcatバージョン*
- ・ポーリング間隔*
- *入力必須項目です。
- 3. 追加したTomcatサーバーの監視画面に移動します。

[監視] タブから監視対象のカテゴリをクリックし、監視名をクリックすることで移動できます。

その他、[ホーム]画面のダッシュボードから監視対象のカテゴリをクリックし、その後、監視

名をクリックすることで監視画面を表示することもできます。

4. 可用性と正常性が色別に表示されます。 正常性の詳細がアイコンの下に表示されます。

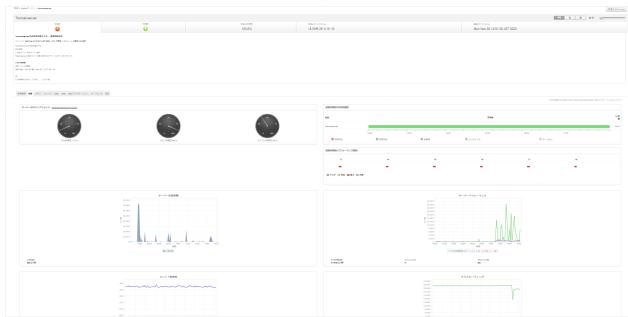


可用性アイコン: ● アップ ● ダウン

正常性(重要度)アイコン: ●重大 ● 警告 ● クリア ● 非管理

5. [概要] タブでは、サーバーのスナップショットと、時間ごとの可用性とパフォーマンスの履歴 が最新6時間表示されます。

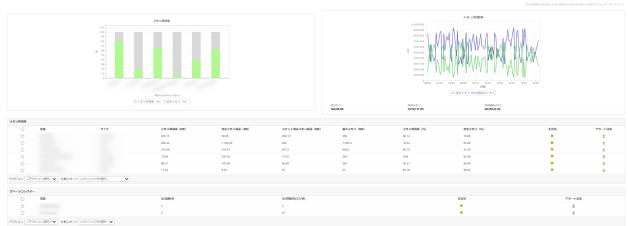
Tomcatサーバー監視では、サーバー応答時間、サーバーパフォーマンス、スレッド利用率、クラスローディング、レスポンスサマリが表示されます。



- 6. Tomcatサーバー監視では、以下の各タブから監視項目を表示します。
 - ・メモリ
 - ・スレッド

- · JDBC
- · Web
- ・Webアプリケーション
- ・サーブレット

最初信頼 概要 メモリ スレッド JOBC Web Webアブリケーション サーブレット 設定



7. Applications Managerで計測したアプリケーション/装置の可用性や正常性に従ってアラートを発生させるには、しきい値、アノマリの設定が必要です。

画面右上の [監視アクション] → [アラート設定] から、障害管理のためのしきい値、アノマリを設定できます。

しきい値、アノマリの設定方法は『12 アラート設定方法』をご参照ください。

8.2 ポーリング設定

監視対象のデータを収集するポーリング間隔を設定します。 ポーリング間隔のデフォルト値は5分です。

5分未満を指定する場合は、潤沢な動作環境をご用意ください。

- 1. 登録したアプリケーションまたは装置の監視画面に移動します。
- 2. 監視画面右上の[監視アクション]ボタンをクリックします。
- 3. [監視の編集]をクリックします。
- 4. 監視の編集ページより、登録した監視情報とポーリング間隔の編集ができます。
- 5. 編集後、 [更新] ボタンをクリックして、変更を保存します。



8.3 [パフォーマンスポーリング] 設定

『8.2 ポーリング設定』で指定した収集間隔でデータを収集しますが、 [設定] タブ→ディスカバリとデータ収集配下の [パフォーマンスポーリング] から、収集するデータに関する詳細設定をすることが可能です。

デフォルトで無効となっている監視項目を有効化する場合にも[パフォーマンスポーリング]から設定 を行います。

各タブの内容は以下の通りです。

タブ名	説明
データ収集	詳細なパフォーマンスデータを収集する間隔を設定
サーバー	サーバー監視項目、アラート発生条件を設定
データベースサーバー	MySQL/MariaDBのデータ収集の有効・無効
	MongoDB/Cassandra/Redisの再ディスカバリ間隔
	Oracleアラートログ監視の設定
MS SQL	MS SQL監視のメトリックごとのポーリング設定
	*デフォルトで無効となっている監視項目の追加も可能
HAProxy	HAProxy監視時のアラート発生条件の追加
APMインサイト	データのクリーンアップ期間、データ収集制限、Auto Scalingの
	設定可能
WPA	Webページ保持期間の設定
WebLogic	WebLogic監視で表示する項目の設定
SNMP	トラップリスナー設定
URL	ログの有効化やHTML応答のエンコード設定
Amazon	EC2インスタンスの一意の識別子設定や、Auto Scalingアラート
	の有効化
Webサービス	Webサービス操作レスポンスのログを有効にするタイミングの設
	定
ping監視	送信するパケット数やpingコマンドの設定
データ収集の最適化	各監視タイプの詳細設定

9 監視グループの設定

監視グループ機能により、追加したアプリケーション/装置をグループ化することができます。

9.1 監視グループの作成

- 1. [新規監視グループ] タブ→ [監視グループ] をクリックし、新規監視グループ作成ページに移動します。
 - *APMプラグインの場合は、[設定]タブ→ディスカバリとデータ収集配下の[追加/ディスカバリ]をクリックし、画面上部の[監視グループ]をクリックします。
- 2. [監視グループ名]に、作成する監視グループの名前を入力します。
- 3. [説明]に、監視グループの説明を入力します(任意)。
- 4. [オーナー] に、監視グループを操作・表示できるユーザーを指定します。
- 5. [グループタイプ]より、監視グループの種類を選択します。
 - ・ [監視グループ] :追加済みの複数のアプリケーション/装置をグループ化
 - ・[Webアプリケーショングループ]:Webアプリケーションを、Webサーバー、データベース、URLなど、カテゴリごとに分類して表示、管理
- 6. [この監視グループのマップビューを作成する] にチェックを入れます(任意)。 詳細は、『13.4 その他マップ機能』でご紹介しています。
- 7. [監視グループの作成]をクリックし、設定を保存します。

9.2 監視グループの参照

作成した監視グループを参照する方法は以下の通りです。

- 1. [監視] タブ→ビューの選択から、[監視グループ] を設定し、監視グループを選択します。
- 2. 各タブから監視グループに関する監視情報を参照することが可能です。

タブ名	説明
サマリ	監視グループ情報、監視グループに所属している監視一覧、最新重大アラートを
	表示します。
ビジネスピュー	監視グループに所属している監視どうしの関係性をビュー表示します。
可用性	監視グループに所属している各監視の可用性を表示します。
パフォーマンス	監視グループに所属している各監視のパフォーマンスを表示します。
ダッシュボード	監視グループテンプレートダッシュボードを関連付けると、監視グループのダッ
	シュボードを作成することができ、パフォーマンスや可用性を視覚的に把握する
	ことが可能です。

9.3 監視グループの関連付け

作成した監視グループに新たに監視を追加する方法は以下の通りです。

- 1. [監視] タブ→ビューの選択から、 [監視グループ] を設定し、監視グループを選択します。
- 2. 画面右上の[監視の関連付け]をクリックします。
- 3. [利用可能な監視] にある監視名のチェックボックスにチェックを入れ、 [関連付け] または [関連付けて戻る] をクリックします。

[新規監視追加] から、監視を追加することも可能です。

[監視グループにある監視]から、監視グループに所属している既存の監視を削除することも可能です。



10 セルフ監視

Applications Managerのインストールサーバー自体(CPU、ディスク空き容量)を監視します。 ポーリング間隔や回数、しきい値を設定することでしきい値を超えた場合にアラートが発生します。

10.1 セルフ監視で設定可能な項目

設定可能な項目は以下の通りです。

() 内が変更可能な値です。

診断名	説明
CPU利用率	CPU利用率が最新(ポーリング間隔×ポーリング回数)分間でしきい値(し
	きい値の値) %を超過した場合、アラートを生成
ディスクI/O利用率	物理ディスクのビジータイムが最新(ポーリング間隔×ポーリング回数)分
	間でしきい値(しきい値の値)%を超過した場合、アラートを生成
ディスク利用率	ディスク利用率が最新(ポーリング間隔×ポーリング回数)分間でしきい値
	(しきい値の値)%を超過した場合、アラートを生成
JVMメモリ利用率	Javaメモリの(しきい値の値)%が最新(ポーリング間隔×ポーリング回
	数)分間で利用されていた場合、アラートを生成
JVMスレッドブロック	Javaスレッドの(しきい値の値)%が最新(ポーリング間隔×ポーリング回
	数)分間でブロックされていた場合、アラートを生成

メモリ利用率	メモリ利用率が最新(ポーリング間隔×ポーリング回数)分間でしきい値
	(しきい値の値) %を超過した場合、アラートを生成
ポーリング遅延	過去(ポーリング間隔×ポーリング回数)分間に追加された監視のいずれか
	で、ポーリング遅延がしきい値(しきい値の値)%を超えると、アラートを
	生成
ポーリング停止	追加された監視のいずれかでポーリングが停止すると、アラートを生成



10.2 セルフ監視の設定

- 1. 「設定」タブ→ツール配下の「セルフ監視」に遷移します。
- 2. 画面右上の [すべて編集] をクリックし、各項目の値を変更します。
- 3. 変更後、 [保存] をクリックします。

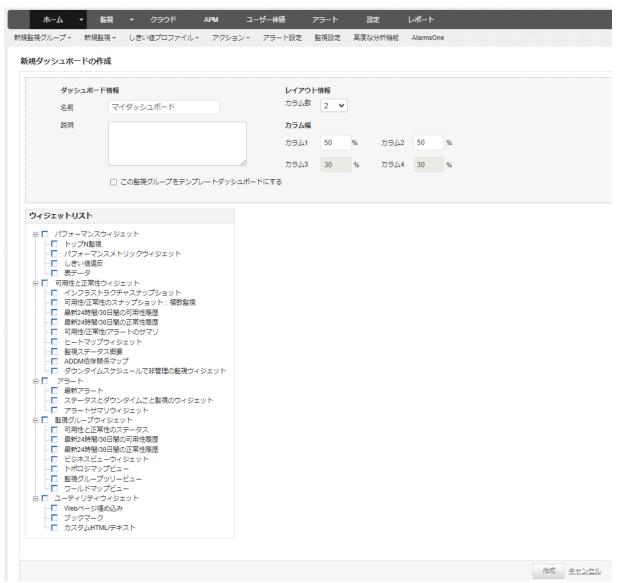
11 ダッシュボード

[ホーム] タブで表示される画面をダッシュボードと呼びます。

デフォルトのダッシュボードにウィジェットを追加できるほか、新しくダッシュボードを作成することが可能です。

11.1 ダッシュボードの作成

- 1. [ホーム] タブをクリックし、画面右上の [アクション] をクリックします。
- 2. [新規ダッシュボード]をクリックし、新規ダッシュボードの作成ページに移動します。



- 3. [名前]に、作成するダッシュボードの名前を入力します。
- 4. [説明] に、ダッシュボードの説明を入力します。
- 5. [ウィジェットリスト] より、追加するウィジェットを選択します。 ダッシュボード作成後も、 [アクション] → [ウィジェット追加] から、ウィジェットを追加で きます。
- 6. [作成]をクリックし、設定を保存します。

<u>11.2 追加可能なウィジェット一覧</u>

パフォーマンスウィジェット	
トップN監視	1つのパフォーマンスメトリックを基準に、上位のリソー
	スを表示します。

パフォーマンスメトリックウィジェット	特定リソースのパフォーマンスメトリックについて、値の
	スナップショットを表示します。
しきい値違反	パフォーマンスメトリックでしきい値超過のあった監視を
	すべて表示します。
表データ	監視情報を表形式で表示します。

可用性と正常性を、監視タイプごとにグループ化して
表示します。
指定した監視タイプの状態を表示します。
選択した監視タイプに該当する監視の、最新24時間ま
たは30日間の可用性の履歴を表示します。
選択した監視タイプに該当する監視の、最新24時間ま
たは30日間の正常性の履歴を表示します。
選択した監視カテゴリの可用性と正常性、およびア
ラートの状態を表示します。
選択した監視の正常性と可用性の状態を色別で表示し
ます。
選択した監視の可用性を色別で表示します。
選択した依存関係マップの、相互に接続されている
サーバーとその関連アプリケーションを可視化しま
ं ∮ 。
ダウンタイムスケジュールが割り当てられている監視
の一覧を表示し、その監視が現在スケジュールメンテ
ナンス中であるか、非管理状態であるかを表示しま
す。

アラート	
最新アラート	すべての監視の最新アラートを表示します。
ステータスとダウンタイム <i>ご</i> との監視のウィ	一定期間ダウンしているすべての監視のステータスと
ジェット	可用性のステータスを表示
アラートサマリウィジェット	すべての監視と監視グループのアラートを表示しま
	す。

監視グループウィジェット	
可用性と正常性のステータス	すべての監視グループの可用性と正常性、および過去 24時間の可用性が表示されます。
最新24時間/30日間の可用性履歴	すべての監視グループの、最新24時間または30日間の 可用性の履歴を表示します。
最新24時間/30日間の正常性履歴	すべての監視グループの、最新24時間または30日間の 正常性の履歴を表示します。

ビジネスピューウィジェット	監視グループのビジネスビューを表示します。
トポロジマップビュー	リソースの相互接続をマップ上に表示します。異なる 場所に分散している装置やサーバーの全体の把握に活 用できます。
監視グループツリービュー	監視グループ内の監視一覧とその正常性と可用性を、 ツリー構造で表示します。
ワールドマップビュー	監視グループにロケーションが割り当てられている場合、マップビューで監視グループとサブグループを表示します。

ユーティリティウィジェット	
Webページ埋め込み	他のアプリケーションのWebページをダッシュボード
	に表示できます。
ブックマーク	任意のウェブリンクを表示できます。
カスタムHTML/テキスト	ダッシュボード上にメモを追加できます。

12 アラート設定方法

アラートを設定することで、追加したアプリケーション/装置の障害情報を通知することができます。 アラートをメールで通知するには、本項目をご参照ください。 なお、メールサーバー設定に関しては、『15.2 メールサーバー設定』をご参照ください。

12.1 しきい値プロファイルの作成

しきい値プロファイルを使用することで、あらかじめ設定した条件をもとにアラートを発報できます。 Applications Managerでは以下の3種類のプロファイルをご用意しております。

■しきい値プロファイル

アラートを発生させるための値を指定するプロファイルです。 ある監視項目の値がしきい値を上回ったときに検知します。

しきい値プロファイルの作成手順:

- 1. サブタブの「しきい値プロファイル」をクリックします。
- 2. [新規しきい値プロファイル]をクリックします。
- 3. しきい値プロファイルの詳細を設定します。
 - ・新規しきい値プロファイルの作成:数値、文字列値、浮動小数点から選択
 - ・しきい値名:しきい値プロファイルの表示名
 - ・重大(重要度):重大アラートを上げる値を入力
 - ・高度なオプションを表示:重大アラートに加えて、警告、クリア条件を設定することが可能



作成済みのプロファイルは [しきい値プロファイルを表示] から確認できます。

■可変しきい値プロファイル

平均値から算出した上限値を超えた場合にアラートを発生させるプロファイルです。 特定の期間の平均値をベースラインとして設定する方法と、カスタム表現としてシステム変数を用いて 可変しきい値プロファイルを設定する方法があります。

可変しきい値プロファイルの作成手順:

- 1. サブタブの「しきい値プロファイル」→「新規しきい値プロファイル」をクリックします。
- 2. 「可変しきい値プロファイル」をクリックします。
- 3. 可変しきい値プロファイルの詳細を設定します。
 - ・新規しきい値プロファイルの作成:数値のみ選択可能
 - ・しきい値名:しきい値プロファイルの表示名
 - ・フォーミュラの選択:「ベースライン値〕か「カスタム表現〕を選択

【ベースライン値】

ベースライン日付範囲を設定:しきい値を取るための平均値を、どの期間で取得するかを指定します。

ドロップダウンからベースラインとするデータ範囲を設定します。

※ [ベースラインを%指定する場合はチェック]:チェックを入れない場合は、値を直接指定します。

【カスタム表現】

Applications Managerの独自の計算式を使用します。

※詳細はユーザーガイドをご参照ください。

https://www.manageengine.jp/products/Applications_Manager/help/creating-threshold-profile.html

- ・重大(重要度):重大アラートを上げる値を入力
- ・高度なオプションを表示:重大アラートに加えて、警告、クリア条件を設定することが可能



作成済みのプロファイルは「しきい値プロファイルを表示」から確認できます。

■アノマリプロファイル

平均値からのずれを検知してアラートを発生させるプロファイルです。

特定の期間の平均値をベースラインとして設定する方法と、カスタム表現としてシステム変数を用いてアノマリプロファイルを設定する方法があります。

アノマリプロファイルの作成手順:

- 1. サブタブの [しきい値プロファイル] をクリックします。
- 2. [新規アノマリプロファイル]をクリックします。
- 3. アノマリプロファイルの詳細を設定します。
 - ・アノマリプロファイル名:アノマリプロファイルの表示名
 - ・アノマリ検出基準: [ベースライン値] か [カスタム表現] を選択
 - ・(※ベースライン値を選択した場合)ベースライン日付範囲を設定
 - アノマリとして扱うタイミング:

【ベースライン値】

ベースラインからどのくらい値が外れたらアラートをあげるか、上限と下限ごとに指定します。

【カスタム表現】

利用可能なシステム変数から、変数を使ってアラートを上げる値を設定します。

詳細はユーザーガイドをご参照ください。

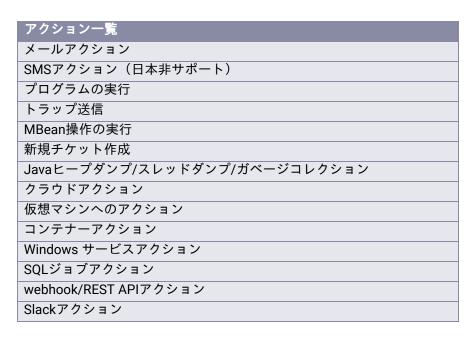
https://www.manageengine.jp/products/Applications_Manager/help/anomaly-profile.html

しきい値プロファイル 可変しきい値プロファイル アノマリプロファイル	
アノマリプロファイル	
アノマリプロファイル名*	
アノマリ検出基準。	●ベースライン値
ベースライン日付範囲を設定*	● 固定ベースライン値の基準 第1週 ▼ : 9月 2022 ▼ レボートデータ
	○ 移動ベースライン値の基準 "先運" レボートデータ
アノマリとして扱うタイミング: *	✓ ベースライン値を%で指定
	<u>上限値</u> 20 % <u>生成</u> 重大 ∨ アラート
	<u>下限値</u> 30 % <u>生成</u> 警告 ▼ アラート
	1時間ごとのチェックによって他がベースライン範囲に収まる場合は、アラートをクリアします。
比較方法	
ベースラインと最新1時間を直接比較(推集) 毎時値をベースラインと直接比較します。 たとえば、現在の時刻が月曜日の午前10時で、かつ、ベースライン日付範囲が第2週とします。この場合、第2週の月曜午前10時の値を採用し、ユーザー設定の上限・下限に適用して比較します。 前の1時間との対応差分値で比較 比較の際、対応する毎時値の差分を使います。 例:現在の時刻が午前10時であれば、午前10時と午前9時の差分を比較します。ベースライン値の取得も、同様に行います。	
	アノマリプロファイルを生成 リセット <u>キャンセル</u>

作成済みのプロファイルは[アノマリプロファイルを表示]から確認できます。

12.2 アクションの作成

発生したアラートを通知するためのアクションを作成します。 作成できるアクションは以下の通りです。



作成手順は以下の通りです。 例としてメールアクションを作成します。 初めてメールアクションを設定される場合は、先にメールサーバー設定が必要です。 『15.2 メールサーバー設定 』をご参照ください。

- 1. サブタブの [アクション] をクリックします。 APMプラグインでは、 [設定] メニュー $_{\rightarrow}$ [アラート/アクション] カテゴリ内の [アクション] をクリックします。
- 2. 「新規アクションの作成〕より、「メールアクション〕を選択し、クリックします。
- 3. [表示名] にアクションの名前を入力します。
- 4. [送信元アドレス] に、送信元となるメールアドレスを入力します。 (デフォルトのメールアドレスはapmnotice@manageengine.jpです。)
- 5. [宛先アドレス] に、宛先のメールアドレスを入力します。
- 6. [件名] に、送信するメールの件名を入力します。
- 7. [メッセージ] に、送信するメールに表示するメッセージを入力します。 変数 (タグ) を入力すると、アクション実行の原因となったエラー情報を表示することができます。
- 8. [メールフォーマット] から、送信するメールの形式(プレーンテキスト/HTML/両方)を選択します。
- 9. アプリケーション/装置のアラート情報をメール内に表示する場合は、[アラートメッセージの添付]のチェックボックスを選択します。
- 10. メール送信を業務時間内に限定する場合は、[アクションを業務時間にもとづいて実行]のチェックボックスを選択します。
- 11. [アクションの作成]をクリックして、設定を保存します。

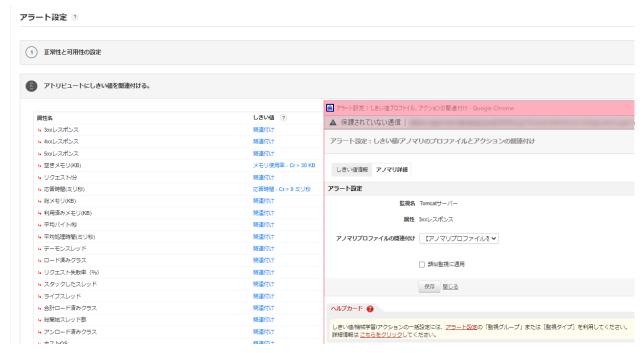


12.3 しきい値プロファイルとアクションの関連付け

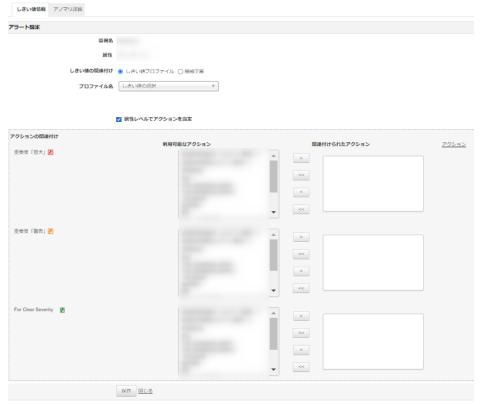
- 1. しきい値を関連付ける監視の監視画面を開きます。
- 2. 画面右上の [アラート設定] (または、 [監視アクション] → [アラート設定]) をクリックします。
- 3. 「アトリビュートにしきい値を関連付ける」から、対象の属性名の「関連付け」をクリックしま

す。

アノマリプロファイルを関連付ける場合は、対象の属性名の[関連付け]をクリックし、[アノマリ詳細]タブをクリックしてください。



- 4. しきい値の関連付けで、 [しきい値プロファイル] にチェックを入れ、プロファイル名を選択します。
 - しきい値プロファイルを新規作成するには、[-新規しきい値プロファイル-]を選択します。
- 5. [属性レベルでアクションを設定]をクリックします。
- 6. [利用可能なアクション] 一覧から、アラートが発生したら実行するアクションを選択し、[>] をクリックして、[関連付けられたアクション] に移動します。



7. [保存]をクリックして、設定を保存します。

[属性レベルでアクションを設定]でアクションを選択しなかった場合、 その属性でしきい値違反があった際は正常性のRCAメッセージが更新されます。 正常性にアクションが関連付けられている場合、そのアクションで通知が行われます。

■複数の監視対象に一括でしきい値とアクションを関連付ける方法

属性ごとにしきい値の作成、関連付けをすることが可能です。

- 1. 「設定】タブ→アラート/アクション配下の「アラート設定」に遷移します。
- 2. アラート設定から [監視グループ] または [監視タイプ] を選択します。
 - ・ [監視グループ] を選択した場合 アクションタイプを以下の2つから選択してください。
 - ○個別:

監視ごとに属性が表示されるため、それぞれしきい値を関連付けます。

- ○テンプレート:
 - 監視タイプを選択し、表示された属性にしきい値を関連付けます。
- ・[監視タイプ]を選択した場合 リストから属性を選び、しきい値を関連付けてください。

12.4 ダウンタイムスケジューラー

計画停電やメンテナンス等の時間を事前に設定し、その時間帯を障害として検知しないようにします。

- 1. [設定] タブ $_{\rightarrow}$ ディスカバリとデータ収集配下の [ダウンタイムスケジューラー] をクリックします。
- 2. 以下の4つのタブから、ダウンタイムスケジューラーを設定します。
 - ・ダウンタイムスケジュール

特定の監視対象を選択し、指定した期間にアラートを発生させないための設定を行います。 スケジュールを日次、週次、月次の定期実行と、指定日時に1回のみ実行するよう指定できます。

- ・ダウンタイムスケジューラー設定 ダウンタイムスケジューラー実行中、および実行後の動作を設定します。
- ・メンテナンス中の監視 ダウンタイムスケジューラー実行中の監視を一覧表示します。
- ・メンテナンス中の監視グループ ダウンタイムスケジューラー実行中の監視グループを一覧表示します。

13 マッピング機能

アプリケーションを構成するITインフラをマップで示すことで、それぞれの関係を明らかにします。

13.1 ADDM機能とは

ADDM(依存関係マップ)機能を使用することで、従来のExcelやスプレッドシートなどの使用と比べ、アプリケーション間の接続関係を容易に把握することができます。

ADDMで可能な機能は以下の通りです。

- リソースを検出してグループ化
- リソース間の関係の可視化
- リソースをマッピングして、ITインフラストラクチャの全体像を把握
- リソースの正常性と影響の可能性を評価
- 問題発生時の検知と切り分け

13.2 ADDMの作成

ADDMの作成方法は以下の通りです。

- 1. 「設定〕タブ→ディスカバリとデータ収集配下の「追加/ディスカバリ〕に遷移します。
- [ディスカバリ] タブに遷移し、ネットワークディスカバリ欄の[新規追加]をクリックします。

すでにディスカバリを行っている場合は、 [ディスカバリ] タブから依存関係マップ欄の [新規追加] をクリックし、手順7以降を行ってください。

- 3. ADDMの対象とする監視をディスカバリします。 以下のディスカバリ詳細項目を入力してください。
 - 名前
 - ・認証情報リスト (認証情報マネージャーからすべての認証情報を利用する/次の選択した認証情報を利用する)
 - ・タイプ
 - [レンジ]: IPアドレスレンジを入力します。
 - [CIDR] :ネットワークアドレスを入力します。
 - ○「VMware]: VMware情報を入力します。
- 4. ポート選択で、 [ポートの設定] をクリックすると、ポップアップが表示されます。 ディスカバリ中にスキャンするサービスのポートを設定できます。 サービスのデフォルトポートがリストアップされていますが、編集も可能です。 アプリケーションごとに複数ポートを指定するには、カンマ区切りにしてください。 (任意で設定)
- 5. [ディスカバリ] または [ディスカバリして追加] をクリックします。 ディスカバリ後、すべての監視をすぐに追加する場合は [ディスカバリして追加] 、追加する監 視を選択したい場合は 「ディスカバリ] を選択してください。
- 6. ディスカバリの完了までしばらくお待ちください。
- 7. ディスカバリ完了後、 [アプリケーション依存関係マップの表示] をクリックすると、依存関係 マップの追加画面が表示されます。

依存関係マップ名と、マップに含む監視のチェックボックスにチェックを入れ、[デモの表示] をクリックすると、マップが表示されます。

8. デモに問題がなければ、[作成]をクリックしてください。

13.3 ADDMの表示

作成したADDMを表示する方法は以下の通りです。

- 1. [設定] タブ→ディスカバリとデータ収集配下の[追加/ディスカバリ] に遷移します。
- 2. [ディスカバリ] タブをクリックして、依存関係マップ欄から作成したADDMを選択します。
- 3. ADDMを編集したい場合は、鉛筆マークをクリックすると編集画面に遷移します。

<u>13.4 その他マップ機能</u>

ADDM機能以外にもマップ機能がございます。

■ビジネスビュー

監視グループごとのビューです。

監視グループに関連付けられている監視を視覚的に表示できるビューです。

【作成方法】

監視グループを作成する際に、[この監視グループのマップビューを作成する]オプションにチェックを入れることで、自動的にビジネスビューが作成されます。

監視グループの作成方法は『9.1 監視グループの作成』をご参照ください。

【表示方法】

[ホーム]タブ配下のダッシュボードで、ビジネスビューウィジェットを作成することで参照が可能で す。

または、監視グループ画面の「ビジネスビュー」タブをご参照ください。

■トポロジマップビュー

組織内のリソースの相互関係を可視化します。

特定のネットワーク機器やサーバーをマップ上でグループ化し、それぞれのつながり方を描画できます。

【作成方法】

- 1. [ホーム] タブ配下のダッシュボード画面右上の[アクション] をクリックします。
- 2. [ウィジェット追加]から、監視グループウィジェット配下の[トポロジマップビュー]を選択し、[追加]をクリックします。
- 3. ダッシュボードに追加されたトポロジマップを、[こちらをクリック]から編集します。
- 4. ウィジェットの名前と説明を入力します。
- 5. ドロップダウンメニューから既存のトポロジマップを選択するか、 [追加] をクリックして新規トポロジマップを追加します。
- 6. 「設定の保存」をクリックします。
- 7. 作成したトポロジマップがウィジェットに表示されます。

【表示方法】

[ホーム] タブ配下のダッシュボードで、トポロジマップビューウィジェットを作成することで参照が可能です。

14 レポート

14.1 レポートの紹介

Applications Managerのレポート機能の一部をご紹介します。

■ 7/30レポート

各監視に対して、最新7日間、最新30日間の属性やリソースのデータをレポート化します。 監視画面に表示される、以下のボタンから表示が可能です。

7 30

■ トレンド分析レポート

主に各監視対象で [概要] タブから確認できる項目を含んだレポートを生成します。 [概要] タブでは、以下の項目が表示されます。

- ・可用性と正常性
- ・本日の可用性(%)
- ・アップタイム
- ・ダウンタイム
- キャパシティプランニングレポート

ハードウェアコストとコンピューティングニーズのバランスを保つためのレポートです。 CPU利用率、メモリ利用率、ディスク利用率をもとに、ハードウェアの容量不足を把握します。

■ 予測レポート

現在のディスク使用傾向に基づいて今後の使用率を予測し、将来的なリソース(ハードウェアコストバランス)を計画するためのレポートです。

■ インベントリレポート

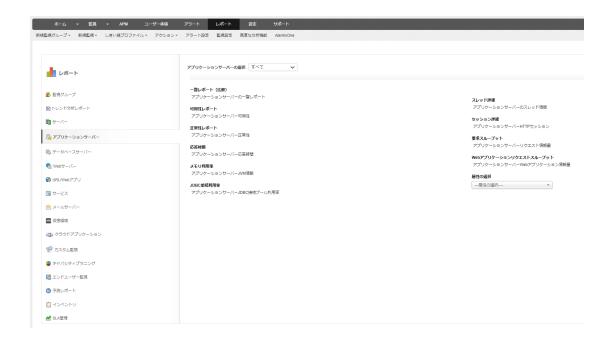
追加された監視対象のカラムをレポート化します。

- ・リソースID、リソース名
- ・表示名
- ・タイプ、カテゴリ
- ・ポーリング間隔
- ・ステータス
- ·作成時間

*カテゴリによって選択できないカラムがあります。

14.2 レポート作成方法

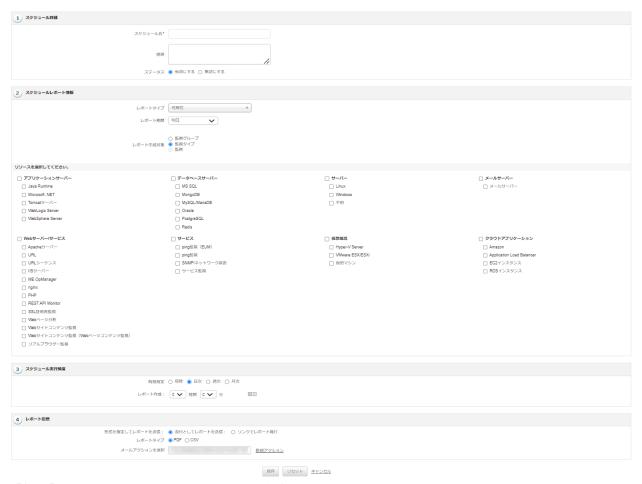
- 1. [レポート] タブをクリックします。
- 2. 左側のカテゴリから、出力するレポートタイプを選択します。
- 3. 画面上部のドロップリストからレポートで出力するアプリケーション/装置を選択します。
- 4. レポート一覧から作成するレポートをクリックして、レポートを生成します。
- 5. PDF形式、CSV形式、メール送付、印刷から出力できます。 *レポートの種類により出力可能な形式が異なります。



14.3 スケジュールレポート

レポートを定期的に出力する方法です。

- 1. [設定] タブ→レポート配下の [スケジュールレポート] をクリックしてください。
- 2. 画面右上の[新規スケジュール]をクリックし、必要事項を入力します。
- 3. スケジュール詳細
 - ・スケジュール名:スケジュールレポートの名前を入力します。
 - ・説明(任意):スケジュールレポートの説明を入力してください。
 - ・ステータス:有効/無効を選択します。
- 4. スケジュールレポート情報
 - ・レポートタイプ:レポートの種類を選択します。
 - ・レポート期間:レポートに含む期間を選択します。
 - ・レポート生成対象: [監視タイプ]、[監視グループ]、[監視] (個別監視を指します。) から選択します。
 - *選択したレポートタイプによって、レポート生成対象に選択できないものがあります。 スケジュールレポート情報を指定すると、それに応じたリソースが表示されます。
- 5. スケジュール実行頻度
 - スケジュールを実行する間隔(毎時、日次、週次、月次)を指定します。
- 6. レポート配信
 - ・形式を指定してレポートを送信:
 - 配信メールにレポートを添付するか、リンクを入力するか選択します。
 - ・レポートタイプ:
 - PDF、CSV、*Excelから選択します(*レポートタイプによって選択可能です)。
 - ・メールアクションを選択:
 - 関連付けるメールアクションを選択します。



7. [保存]をクリックして、スケジュールを作成してください。

15 その他

15.1 ユーザー管理

**Applications Manager上で利用できるユーザーは、初期ユーザーのadminのみです。
admin以外のユーザーを作成する場合には、ユーザーオプションの購入が必要です。
Applications Managerを複数人で管理する場合に、ユーザーアカウントごとに権限を作成し付与することができます。

ユーザー権限は以下の通りです。

ユーザー権限	説明
admin	すべての管理者アクティビティへのアクセス権限
管理者	ユーザー/オペレーターに付与する権限を管理

	以下の操作を除く、すべての管理者アクティビティへのアクセス権限
	・[設定]→ツールの配下[サポート]からクエリツールとDBステータスにア
	クセス
	・Applications Managerサービスを製品UIからシャットダウン
	・[設定]→製品設定配下の[ユーザー管理]から、[アカウントポリシー]タ
	ブにアクセス
	・ [設定] →製品設定配下の [ユーザー管理] から、 [権限] タブであらゆる管
	理権限にアクセス
オペレーター	管理者によって割り当てられた監視グループへの読み取り権限
ユーザー	すべての監視グループの読み取り権限
マネージャー	各種ビジネスアプリケーションのステータス全般を把握できる、SLAコンソール
	を介してService Level Agreements(SLA)を管理
	※管理者権限はありません。
代理管理者	限定的な管理権限
	管理者権限のユーザーを作成する際に代理管理者を選択することで、作成可能で
	す。

ユーザーの作成方法は以下の通りです。

- 1. [設定] タブ→製品設定配下の [ユーザー管理] をクリックします。
- 2. [プロファイル] タブから [新規追加] をクリックし、以下の項目を入力します。
 - ・ユーザー名:ユーザーの名前を入力します。
 - ・パスワード:ユーザーのパスワードを入力します。
 - ・役割:5種類のユーザー権限から役割を選択します。

(補足)

- ・オペレーター、マネージャー、代理管理者を選択した場合、アクセス可能な監視グループを選択します。
- ・役割を代理管理者にするには、事前に設定で代理管理者を有効にする必要があります。有効にするには、「設定」タブ→製品設定配下の[ユーザー管理]をクリックし、[権限]タブに移動し、[代理管理者の設定を有効にします]にチェックをいれます。
- 3. [ユーザーの作成]をクリックし、設定を保存します。



セキュリティ向上のため、アカウントポリシーを任意に設定します。 ログイン時にアカウントロックまで失敗できる許容回数や、パスワードの更新についての設定が可能で す。

- 1. [設定] タブから、製品設定配下の [ユーザー管理] をクリックします。
- 2. [アカウントポリシー]タブから以下の設定が可能です。
 - ・[アカウントロックを強制]

アカウントをロックする条件:

連続失敗回数を指定

待機セッションタイムアウトを指定

- ・ [ユーザーセッションを1つに強制]
- ・ [強力なパスワードルールを強制]
- ・ [最初のログイン時にユーザーにパスワードの変更を強制する]
- ・ [後にユーザーアカウントのパスワードの有効期限を強制する]
- ・ [管理者アカウントのユーザー管理操作を制限する]
- ・ [ユーザーアカウントの営業時間設定を有効にする]



15.2 メールサーバー設定

メールサーバー設定は [設定] → [接続サーバー設定] → [メールサーバー] タブから設定可能です。

接続プロトコル [SMTP] の場合

- 1. [メールサーバー設定] 画面で、接続プロトコル [SMTP] を選択します。
- 2. 認証タイプ [Basic] または [OAuth] を選択します。
- 3. [Basic] を選択する場合、以下の項目を入力してください。
 - (1) 「SMTPサーバー」と「SMTPサーバーポート番号」を入力
 - (2) [メール] アドレスを入力

通知アクションを設定する際の送信元メールアドレスとして使用できます。

- (3) SMTPサーバーで認証が必要な場合、 [SMTPサーバー認証が必要] にチェックを入れ、ユーザー名、パスワードを入力
- (4) [セキュア接続の有効化(SSL)]を任意にチェック



- 4. [OAuth]を選択する場合、以下の項目を入力してください。
 - (1) [SMTPサーバー] と [SMTPサーバーポート番号] を入力
 - (2) [メール] アドレスを入力

通知アクションを設定する際の送信元メールアドレスとして使用できます。

(3) [OAuthプロバイダーを追加する]で追加したプロバイダーを選択



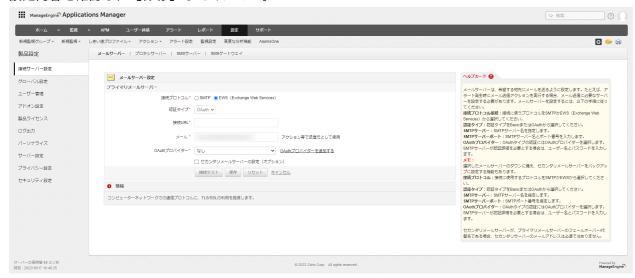
- 5. [TLS認証有効]を任意にチェックします。
- 6. [セカンダリメールサーバーの設定(オプション)]を任意にチェックします。 プライマリメールサーバーがダウンした際のセカンダリメールサーバーとして機能します。
- 7. [接続テスト]より、メール送信ならびに受信を確認してください。 設定した内容の有効性を確認します。
- 8. 設定内容を確認し、[保存]してください。

接続プロトコルがEWS(Exchange Web Services)の場合

- 1. 認証タイプ [OAuth] が選択されていることを確認します。
- 2. [接続URL]を入力します。
- 3. [メール] アドレスを入力します。

通知アクションを設定する際の送信元メールアドレスとして使用できます。

- 4. [OAuthプロバイダーを追加する]で追加したプロバイダーを選択します。
- 5. [セカンダリメールサーバーの設定(オプション)]を任意にチェックします。 プライマリメールサーバーがダウンした際のセカンダリメールサーバーとして機能します。
- 6. [接続テスト]より、メール送信ならびに受信を確認してください。 設定した内容の有効性を確認します。
- 7. 設定内容を確認し、[保存]してください。



15.3 パーソナライズ化

ユーザーごとに、Applications Managerの画面表示をカスタマイズすることができます。

- 1. 「設定」タブ→製品設定配下の「パーソナライズ」をクリックします。
- 2. 以下のタブから各項目をカスタマイズします。
 - ■Webクライアント
 - ・リフレッシュ間隔:Webクライアント画面をリフレッシュする時間間隔(分)を設定
 - 言語選択:表示言語を変更
 - ■スキン
 - ・スキンの選択:画面上部のタブの色を変更
 - ■タブのカスタマイズ
 - ・タブの順番:画面上部に配置するタブを変更
- 3. [保存]をクリックし、設定を保存します。

15.4 オプション機能のご紹介

Applications Managerのオプション機能についてご紹介します。

オプションとは、特定の製品機能を利用するための有償オプション機能です。

■ APMインサイト

Webアプリケーションに関連する各製品を監視することに特化したオプション機能で、Webアプリケーションを構成するコンポーネントを縦串で監視することができる機能です。

アプリケーションにエージェントを導入することで、エンドユーザーが実行したアプリケーションの動作をエージェントが取得し、Applications ManagerのUI上で可視化します。

APMインサイトの仕組みについては以下のソリューションナレッジをご参照ください。 https://www.manageengine.jp/support/kb/Applications_Manager/?p=2392

■ エンドユーザー監視

Applications Managerをインストールしているサーバーとは別に、エンドユーザーに見立てた拠点にエージェントを導入することで、エンドユーザー視点でのアプリケーションや装置の問題を監視することができる機能です。

エンドユーザー監視に分類される機能は以下です。

- ・DNS監視*
- ・LDAPサーバー監視*
- ・メールサーバー監視*
- · Ping監視*
- ・リアルブラウザー監視
- · Telnet監視*
- *通常の監視も可能
- Oracle EBS
- SAP Business One
- SAP CCMS
- SAPサーバー
- Siebel Enterprise Server
- Siebelサーバー
- IBM i
- Db2 (AS/400 · iSeries)
- SAP MaxDB
- IBM WebSphere MQ
- Microsoft Office SharePoint

オプション機能の価格については以下のページをご参照ください。

https://www.manageengine.jp/products/Applications_Manager/pricing.html

16 お問い合わせ窓口と関連資料

お問い合わせ窓口:

- 価格、お見積りなどに関するお問い合わせ https://www.manageengine.jp/purchase/
- 評価版ご利用中のユーザー様向け技術サポート https://www.manageengine.jp/support/trial.html
- 製品購入後のサポート(年間保守サポートサービス) https://www.manageengine.jp/support/purchased.html
- その他製品に関するお問い合わせ https://www.manageengine.jp/contact.html

関連資料:

- オンラインユーザーマニュアル https://www.manageengine.jp/products/Applications_Manager/help/
- ナレッジベース https://www.manageengine.jp/support/kb/Applications_Manager/
- リリース関連情報 https://www.manageengine.jp/products/Applications_Manager/help/release_info.html
- 簡易版スタートアップガイド https://www.manageengine.jp/products/Applications_Manager/startup-guide.html

会社情報

ゾーホージャパン株式会社 ManageEngine 事業部

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3丁目6番1号 みなとみらいセンタービル13階

ホームページ:https://www.zoho.co.jp/

Applications Manager 製品ページ: https://www.manageengine.jp/products/Applications_Manager/